

500号の主な出来事

紅茶「島の香」

空前の紅茶ブームに乗り、昭和36年に建設された紅茶工場において生産されていた紅茶「島の香」。生産のピークは昭和43年ごろだったそうです。



観光まつり

華々しく繰り広げられていた「観光まつり」。平成5年からは「ふるさと夏まつり」に名称が変更になりました。



全国消防操法大会出場（昭和47年）

郡、県大会を勝ち抜き全国大会でポンプ車の部に出場した知名町消防団は、全23チーム中4位で敢闘賞を受賞しました。大会には町関係者のみならず、東京沖洲会をはじめ多くの郷土出身者が応援に駆け付け、団員を激励していたそうです。当時の広報ちなは、臨時特集号が生まれ、大会の様子や団員の活躍などが伝えられていました。また、東京沖洲会の方が記した「知名町消防団奮闘記」には、「はるばる南の果て島から県代表に選ばれることだけでも大したことなのに、よくやってくれました。島の歴史にとって画期的なことであり感謝に耐えない。島人の天をつく意気盛んなものを見て本当にうれしく頼もしかった。」と記されていました。



常陸宮殿下ご夫妻がご来島（昭和48年）

常陸宮殿下ご夫妻が、3日間にわたって沖永良部島に来島されました。常陸宮殿下は昭和36年に続き2回目のご来島でしたが、ご夫妻そろってのご来島は初めてのことで、養護老人ホーム長寿園や屋子母海岸、昇竜洞などを訪問されました。



さとうきびを手に 価格折衝（昭和48年）

さとうきびの政府買上げ価格が大幅に引き下げられたことに対し、大島・熊毛地区あわせて1,200名の陳情団が派遣され要求デモが行われました。



沖永良部台風が襲来（昭和52年）

当時、広報担当であった朝戸武勝氏（前副町長）から当時の状況について寄稿いただきました。

「超大型台風9号は明日午後3時頃沖永良部島付近に最接近」とするその日の午後の台風情報を信じて疑わないまま、午後9時過ぎ予期せぬ早さで台風が直撃、島中の民家や公共施設・農作物などを蹂躞、未曾有の被害を置きみやげにあつという間もなく過ぎ去り、沖永良部島は、停電・断水・通信網途絶という八方ふさがりの状況にたちまち陥りました。

被災のあくる日、至る所がれきや倒木に阻まれ進路にも困難を極める中、全集落の被害状況の記録から始め、町中が喧騒の中、シャッターを切り尽くしましたが、とても全容を取りきることはかなわず一部の記録としかありませんでした。全集落を回り終えるのに4日間を費やしました。

沖永良部台風時の教訓が、後の防災無線や水道施設の停電対策等の町の施策に生かされていくこととなります。（朝戸武勝）



230名の新成人が誕生（昭和49年）

このうち成人式に参加されたのが182名ということですので、今年の新成人(68名)の約3倍となります。



登記所統合絶対反対町民総決起大会（昭和58年）

この時から28年後の今、鹿児島地方法務局沖永良部出張所は1月末をもって廃止されました。現在、月に1回の派遣登記所が役場に開設されています。

